

教科	地理歴史	科目	地理総合	履修学年	2年
単位数	2	科・系	全科	担当者	

教科・科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球環境への取組などへの理解</p> <p>(2)地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする。</p> <p>(3)地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚を深める。</p>
使用教科書・教材等	<p>わたしたちの地理総合～世界から日本へ～（二宮書店）</p> <p>標準高等地図（帝国書院）</p> <p>わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書店）</p> <p>独自プリント</p> <p>独自資料（写真・図・グラフ等）</p>
評価の観点とその方法	<p>評価の観点</p> <p>提出物・定期考査等で次の観点で評価する。</p> <p>①知識・技能</p> <p>②思考・判断・表現</p> <p>③主体的に取り組む態度</p> <p>評価の方法</p> <p>提出物（わたしたちの地理総合ワークブック・プリント等）</p> <p>小テスト</p> <p>定期考査（年5回）</p> <p>以上を参考に総合的に行う。</p>
学習方法・学習形態	<p>歴史の大きな流れと、その背景を把握できるようにする。</p> <p>歴史の流れや内容を理解し、視聴覚教材や歴史地図・資料（写真・図・グラフ等）・教科書の資料を活用して考察する。</p>
留意点その他	<p>・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>

令和6年度学習進度予定表

期	月	学 習 項 目	学 習 内 容	到 達 目 標
一学期	4月	「地理総合」を学ぶにあたって 第1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界	1 球面上での世界① 2 球面上の世界② 3 世界地図でとらえた地球	球体としての地球、時差と生活、主な図法による世界地図、地図の表現を理解する。
	5月	2節 国家の領域と領土問題	1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題	国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。
	6月	3節 国内や国家間の結びつき	1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき	外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する
	7月	4節 日常生活のさまざまな地図 第2章生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化	1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システム(GIS)のしくみと使い方 1 地球上の地形のなりたち 2,3 山地の平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候に対応した生活 6 乾燥した気候に対応した生活 7 季節の違いに対応した生活 8 寒冷な気候に対応した生活	身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。 世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。
夏季休業				
二学期	8月 9月	2節 産業の発展と生活文化	1 農業の地域性 2 農業と生活文化 3 工業の地域性 4 経済成長による生活の変化 5 経済成長による生活の変化 6 工業化による生活の変化 7 工業化による生活の変化	世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。
	10月	3節 言語・宗教と生活文化	1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化 4 キリスト教圏の生活文化 5 イスラーム圏の生活文化 6 イスラーム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 さまざまな社会の形成と生活文化	世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。
	11月	4節 グローバル化の進展と生活文化	1～3 地域統合による生活文化の変化	EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸問

	12月	<p>3章 地球的課題と国際協力</p> <p>1節人口・食料問題</p> <p>2節 居住・都市問題 代</p> <p>3節資源・エネルギー問題</p> <p>4節地球環境問題</p>	<p>4～6 グローバル化による成長と課題</p> <p>1 世界の人口問題 2 人口が増加した国の課題 3 人口が停滞する国の課題 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題</p> <p>1 世界の居住・都市問題 2 大都市の地域性と課題 3 人口が密集する都市の課題</p> <p>1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源の産出と消費</p> <p>1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 3 砂漠化の進行</p>	<p>題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EU と日本のつながりについて考察する。 アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。</p> <p>世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。</p> <p>都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。</p> <p>エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。</p> <p>地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模で起こっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。</p>
冬季休業				
三学期	1月	<p>4章生活圏の諸課題</p> <p>1節自然環境と防災</p>	<p>1 日本の地形・気候と生活 2 風水害と防災 3 火山の噴火と防災 4 地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え</p>	<p>日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。</p>
	2月	2節持続可能な地域づくり	<p>1 地域調査の実施手順と方法 2 地域調査①軽井沢の課題 3 地域調査②軽井沢の観光客と地元住民への聞き取り 4 地域調査③軽井沢の持続的な発展に向けて</p>	<p>生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力や抱えている課題を見いだし、調査を踏まえてその解決策を考察する。</p>
	3月			
春季休業				

教科	地理歴史	科目	歴史総合	履修学年	3年
単位数	2	科・系	全科	担当者	

教科・科目 の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。</p>
使用教科書 ・教材等	<p>歴史総合（実教出版） 歴史総合演習ノート（実教出版） 独自プリント 独自資料（写真・図・グラフ等）</p>
評価の観点 と その方法	<p>評価の観点 提出物・定期考査等で次の観点で評価する。 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に取り組む態度</p> <p>評価の方法 提出物（歴史総合演習ノート等） 小テスト 定期考査（年5回） 以上を参考に総合的に行う。</p>
学習方法・ 学習形態	<p>歴史の大きな流れと、その背景を把握できるようにする。</p> <p>歴史の流れや内容を理解し、視聴覚教材や歴史地図・資料（写真・図・グラフ等）・教科書の資料を活用して考察する。</p>
留意点 その他	<p>・歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>

令和6年度学習進度予定表

期	月	学 習 項 目	学 習 内 容	到 達 目 標	
一学期	4月	「歴史の扉」 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動	1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2 江戸時代の生産・流通と諸改革 3 幕政の改革と東アジア世界	18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。	
	5月	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5 フランス革命とウィーン体制 6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7 オスマン帝国の衰退とロシア	18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	
	6月	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9 江戸幕府の滅亡 10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一 11 明治政府の諸改革 12 日本のアジア外交と国境問題 13 自由民権運動と大日本帝国憲法 14 帝国主義の時代へ 15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16 日清戦争後の東アジア 17 日露戦争と東アジアの変動 18 日本の産業革命		列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。
	7月	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	19 第一次世界大戦 20 ロシア革命とソ連の成立 21 米騒動とデモクラシー 22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23 アジアの民族運動 24 第一次世界大戦後の欧米諸国 25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現		第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソ連の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
夏季休業					
	9月	第6章 経済危機と第二次世界大戦	26 世界恐慌と各国の対応 27 ファシズムの時代 28 満州事変と軍部の台頭 29 日中戦争と戦時体制 30 第二次世界大戦の勃発	第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本	

二学期	10月		<p>31 第二次世界大戦の終結 32 国際連合の成立と冷戦 33 日本占領と日本国憲法 34 朝鮮戦争と日本</p>	<p>の独立回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。</p>
	11月	第7章 経済危機と第二次世界大戦	<p>35 植民地の独立 36 米ソ両陣営の動揺 37 日本の国際社会復帰と高度経済成長</p>	<p>脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。</p>
	12月	第8章 多極化する世界	<p>38 石油危機と世界経済 39 緊張緩和から冷戦の終息へ 40 日本の経済大国化</p>	<p>石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。冷戦の終結、民主主義の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡張とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。</p>
冬季休業				
三学期	1月	第9章 グローバル化と現代世界		<p>歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p>
	2月			
	3月			
春季休業				